

## 小茅（コガヤ）・「オオヒゲナガカリヤスモドキ」の活用に向けて

福本匡志

当会では里山・草原環境の保全と資源活用のため、まだ、小規模ですがオオルリシジミの生息地で茅（カヤ）を採取し、茅葺き屋根の施工業者（小谷屋根）に供給しています。

茅はススキに代表される大茅（オオガヤ）とカリヤス類の小茅（コガヤ）に大別され、小茅のカリヤス類はイネ科ススキ属で、ススキと似ていますが、より小型で茎が細く、「刈りやすい草：刈安」が種名の由来とのこと。茅素材としては、ススキよりも耐久性に富み（カリヤスの茅葺きは60年保つとも言われ、ススキの2倍以上！）、外観や機能的にも優れていることから、茅葺き屋根の職人さんたちからは非常に重宝されているそうです。

日本に自生するカリヤス類（ススキ属カリヤス節）には、「カリヤス」、「カリヤスモドキ」、「オオヒゲナガカリヤスモドキ」の3種があるそうで、このうち「オオヒゲナガカリヤスモドキ」は主に東北南部から上信越地方の日本海側に分布し、小谷村の牧ノ入茅場では「カリヤス」と混生しつつも本種が優占し、茅素材として優先的に採取、利用されています。

さて昨秋、飯山市内のオオルリシジミ生息地でカヤ刈りを行うにあたり、カヤの種類を調べたところ、広大なススキ（大茅）群落の他にオオヒゲナガカリヤスモドキ（小茅）の群落が点在していることがわかりました。どうも、ススキがはびこる草原中心部よりも林道脇や林縁に群落が散見されるような印象です。今回のカヤ刈りでは、ススキとともにオオヒゲナガカリヤスモドキも刈り取りましたが、品質の評価はこれからというところです。

小谷村の茅場では、近年ススキの勢力が拡大し、カリヤス類の自生域が縮小しているとのことですが、当会としても飯山での本種の生態を調べながら、茅素材としての活用に向け取り組みたいと考えます。



オオヒゲナガカリヤスモドキの群落  
(飯山市内オオルリシジミ生息地にて)



オオヒゲナガカリヤスモドキの小穂  
先端の芒(のぎ)や基毛がカリヤスよりも長いのが特徴。

## お知らせ

### 「定期総会」と「オオルリシジミ生息地雪原ウォーク」

年が明け、来年度の計画を立案中ですが、当会の2018年度事業実績の承認と2019年度事業計画を協議いただくため、3月9日（土）に「定期総会」を開催します。本年も昨年に引き続き、オオルリシジミの保全活動のほか、生息地のカヤ場利用や野鳥や植物など生物調査などを行い、会員にご褒美が見込めるような里山の保全活用を目指したいと考えます。会員のみならず、会の事業・活動に対して御要望などをお寄せください。

総会終了後、午後からは昨年も実施しましたが、「オオルリシジミ生息地雪原ウォーク」として、雪原を歩きながら生息地に向かい、野焼き実施のための消雪剤（炭の粉）の散布を行います。消雪剤散布は火災予防のため、散布したところを早く雪解けさせて、周囲に雪の土手を作り野焼きを行います。昨年は4月3日に野焼きを実施し、消雪剤を散布した3カ所で予定どおり行うことができました。



昨年の消雪剤散布の様子

野焼きは草原環境維持（草原性生物の保全、良質なカヤ生産）に有効ですが、継続的な実施が必要と思われますので、是非御協力をお願いします。消雪剤と散布道具は現地までソリで運搬、散布は手作業で行います。スノーシューでの雪山歩きも楽しみつつ・・・。

- 1 開催期日 平成31年3月9日（土）
- 2 場所（会場） 飯山市ふるさと館（飯山市大字飯山1434-1）1階 体験広場
- 3 日程
  - (1) 「北信濃の里山を保全する会 定期総会」
    - 10:30～ 受付
    - 11:00～ 開会、あいさつ
    - 議事（当年度事業報告・収支決算、次年度事業計画・収支予算など）
    - 意見交換など
  - 12:00 閉会
  - (2) 「オオルリシジミ生息地雪原ウォーク」
    - 13:00 飯山市公民館駐車場集合、車乗り合わせで出発
    - 13:15 生息地入口着、徒歩で生息地へ
    - 14:00 消雪剤散布
    - 14:15 生息地発
    - 15:00 生息地入口に戻り、解散
- 4 その他 雪山歩きができる装備で御参加ください。参加者には「スノーシュー」の手配をしますので、参加される方は3月5日までに事務局へ連絡してください。当日の天候により中止または延期とすることがあります。



## 活動報告など

### ・監視カメラを新調しました！

毎年オオルリシジミ生息地に設置している監視カメラですが、昨年度まで使っていた1台が故障・・・本年度は新しく1台を購入し、計3台を生息地内に取り付けました。この監視カメラは人や動物など動くモノを自動的に撮影し、秋に回収するといろいろ写っていました。

右の写真は9月18日の夜、暗闇に写っていた動物。角のようなものが見えており、シカ（鹿）でしょうか？

今のところ多雪地の飯山ではシカの確認事例は少ないようですが、農作物への被害など全国的にシカの食害が問題になっており、蝶の関係でも幼虫の食草が食べ尽くされ、保全に影響する事例もあるとか。今後の動向が気になりました。



### ・オオルリシジミ生息地・秋の環境整備

10月18日に保護区設営のロープと監視カメラ、看板の撤収作業を実施。毎年ですが作業にあたられた三井さん、坪井さん、宮澤さん、お疲れさまでした。

10月28日は通路・観察道の草刈り整備や灌木の除伐などを実施。あちこちでクズが茂っているのが目につき、蔓（ツル）で地を這いながら根を張り広がるので駆除が厄介です（右写真）。この日は道の確保と発生地整備がやっとでしたが、残りは、また、来春に行いますので協力をお願いします。

なお、戸狩地区の放蝶地では観光協会の方が乗用の草刈り機で整備。今年植えたクララなどに配慮いただきました。



### ・カヤ刈りワーキング

巻頭でも触れましたが、本年度も11月にカヤ刈りを実施しました。昨年度は11月中旬の降雪と積雪により、まともに刈り取りできないまま途中で断念。結局、昨年のカヤの買い取り額は一昨年よりも大幅に少なく、33,600円でした（それでも、お金になりました）。

今年は雪辱！を果たすべく、10月から道草の刈り払いなど準備。10月の気温が高めであったことから、ススキの枯れ込みが遅れましたが、11月11日に有志4人で刈れるところから刈り取りを開始しました。

11月17日は参加者を募ってのカヤ刈りワーキング。信州大学教育学部の学生さん（井田会長の教え子さん）たち、さくら国際高校飯山学習センターの先生、生徒さんたちに助っ人として参加いただき、大変助かりました。この日の刈り取り場所は生息地最上段のススキ群落。一昨年からの刈り取りを始めましたが、ススキは太い茎も少なく、草勢は落ち着いてきた感じです。

お昼は恒例の豚汁をふるまい、みなさんから満足いただいた様子。この一時がいいですね。



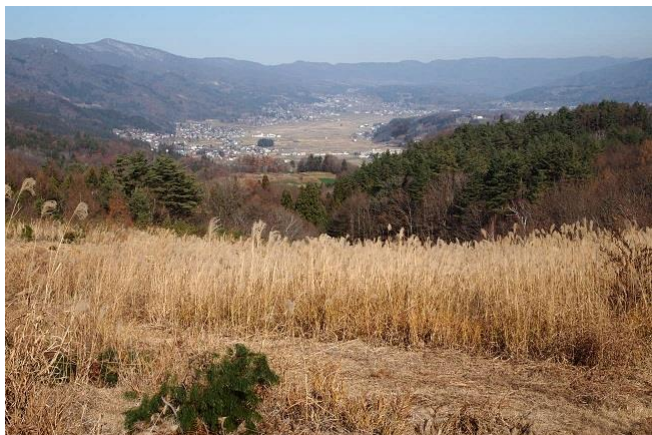
作業合間のティータイム・お疲れさまです。



カヤ刈りワーキング集合写真  
助っ人のみなさま、ありがとうございました。



「カヤ刈りワーキング」は予定量を刈り取り、無事終了。その後は11月18日、25日、27日に有志で生息地中段のススキとオオヒゲナガカリヤスモドキを刈り取り。幸い雪もなく、これまででは、最も多く刈り取ったように思われます。刈り取ったカヤは例年どおり荒船山農村公園の炭焼き小屋に搬入して保管。翌春供給先の小谷屋根に納品する予定です。



茅場から信濃平方面を展望



今年度刈り取ったカヤ、現在ここで保管中。

### ・「きずな」第4回フォーラムへ参加

信州生物多様性ネット「きずな」の第4回フォーラムが2月9日に塩尻総合文化センターで『野生の生きものとその保全 一活動の最前線』をテーマにして開催されました。

自然保護と希少生物の保全活動に関わる方々が110名ほど集まり、講演と事例報告に聞き入りました（内容など詳細は「きずな」ホームページを参照）。最後の総括ディスカッションでは、「子供たちを対象にした環境教育の重要性」がコメンテーターから述べられ、印象的でした。

また、各団体からパネルによる活動紹介があり、東御市と安曇野市でオオルリシジミ保護活動を展示。ウチも頑張らなくっちゃ・・・。



東御市での保全活動のパネル展示  
絶滅が危惧される浅間山系のミヤマシロチョウ（高山蝶）と合わせて紹介。

## 編集後記

春も近づき、来年度の活動に向けての準備など計画中です。今度、3月9日の総会で会員のみなさまから御意見をいただければありがたいです。

本年度、飯山の会員宅で行われたオオルリシジミの継代飼育ですが、残念ながらうまくいかず、放蝶用の蛹が確保できない状況・・・で、来年度は戸狩地区での放蝶は実施せず、自然発生の個体の様子を見ようと思います。飯山産オオルリシジミは安曇野市の丸山潔さん宅で保存していますが、本年度は維持最小限の飼育にとどめており、来年度再増殖をお願いすることになりそうで、丸山さんには昨年たくさんの蛹をいただきながら大変申し訳ない次第です。この失敗を教訓にして、手を抜かず基本に立ち返って次年度の飼育に臨みたいところです。

発行者：北信濃の里山を保全活用する会 会長 井田秀行  
事務局：〒389-2253 飯山市大字飯山1434-1  
飯山市ふるさと館内  
TEL/FAX：0269-67-2030  
E-mail：furusato@city.iiyama.nagano.jp  
編集者・事務局長：福本匡志